

「わくわく算数・数学教室」 前日準備会

8月19日(火)午後、明日から始まる「わくわく算数・数学教室」(以下、わく算)の準備会を片葩小学校で行いました。わく算は例年、SPさんが主体となって運営しています。指導をするのもSPさん、準備をするのもSPさんです。これが、わく算が13年続いてきた一つの大きな理由です。SPさんが主体となって動いてくれる活動だからこそ、ここまで続けることができています。この“準備”も、実は、現場で役立つ仕掛けが盛り沢山です。どんな準備をしていたかを覚えておくことをおすすめします。また、なぜこの準備が必要か?というのも考えてもらうのも良いと思います。現場でも大切なことが、わく算には詰まっています。



←わく算は、SPさんも子どもたちも必ず“指定席”。自分の座席があることが、安心感に繋がります。「来てよかった。」と思えます。その指定席に置く氏名札もSPさんが作ってくれます。手際良く、分担して作るSPさんたち。こうした裏方の仕事、細かな配慮が、本番を円滑に滞りなく過ごすためには必要です。

会場の設営ももちろんSPさん! →
会場の設営に関しては、全ての回を通してSPさんをお願いしています。誰がどの役割をするかについての取り決めはありません。様子を見て、それぞれが考えて動きます。それができるのが、すごい!みなさん、ありがとうございました。



先日の説明会でもお話をしてくださった貝沼校長先生が、今日もとても勉強になるお話をしてくださいました。全てを聞くことができなかったのですが、詳しい内容はぜひお友達やSP控室で近くのSPさんに聞いてみてください。同じ教師という職を志す仲間を作ることができるのも、このわく算の醍醐味のひとつです。今日教えていただいたことを、この後、箇条書きで書いていきます。これからわく算に参加するSPさんはもちろん、教師を目指すSPさんにはぜひ一度は読んでもらいたい内容です。

- 先日紹介した「俵杉算」。これ、子どもたちならどうやって数えると思う?これを、“センスよく”数える方法ってどんな方法がある?「数える時にどこを塊にしているか?」「式に表せないだろうか?」そういう所を算数は目標にしたい。

- 今日は出校日だった。今は出校日がない学校が増えてきた。でも片葩小は出校日が続けている。家庭訪問もまだ続けている。これは、私が子どもたちの“見取り”を大事にしたいから。

子どもを見取るとは、愛情をもってその子を知ろうとすること。見取る核はその子どものよさです。よさに気づき、のばすことを指導の基として、真摯な気持ちで子どもに向き合うことから指導は始まるのです。子どもの姿を見取るには当たり前なのですが、その表情をじっくり見ることと、子どもの話をよく聴くことです。「常に子どもを見ていること」が仕事の基盤なのです。日常的に友達との関わりや授業での様子、生活面での姿など、さまざまな面から一人一人の「普段のその子」をよく見続けることが重要です。（教育出版社のコラムより）

- 出校日の意義は、子どもたちの生存を確認すること。表情や仕草を見取る。そして次は、みなさんにも今回気をつけて欲しいこと。それは、**「どこへ出かけましたか？」と子どもたちに聞かないようにしてほしい。**この質問は夏休みに出かけることが前提の問いかけ。でも、家庭によっては遊びに出られない家庭もある。だから、教師側からは聞かないようにしてあげてほしい。子どもから話してくることはある。それは、たくさん聞いてあげてほしい。もし教師側から何か聞く場合は、「何かやりたかったことはできた？」「計画通り過ごせた？」ならいいかなと思う。昼寝をいっぱいしたい子だっていたかもしれない。そういう子はそういう子で見取りを大事にして認めてあげてほしい。そういう子たちがいっぱい来る。**自分が育ってきた感覚で子どもを見ない、というのは大事な視点だと思う。**
- 不登校問題について、全国にたくさんいる。今の時代、学校に行かなくても自立できる時代になってきた。ただ、社会性を育むには、学校が一番ではないかと私は考えている。社会に出たら、どこかで人と関わっていく。そのためには、学校でたくさんの人数に囲まれて学ぶ方が、社会性が育つと思う学校に来ない選択は否定できないが、学校で学ぶ意義は大きいのではないかなと思う。
- だからこそ、学校ではできるだけ楽しい授業、わくわくする発問を大切にしたい。みなさんにもわく算でいろいろチャレンジして楽しんで欲しい。例えば三角定規。「この三角定規（直角三角形）をみんなが同じ大きさ、同じ角度で書けるように、できるだけ言葉だけで説明してみて。どんな説明をすると書けるかな？」と聞いたら、みんなならどういう説明をする？授業中だと、「どの三角形が同じ？これとこれだね。」と言って済ませてしまう。このように図形を“ただ見て”終わってしまうことが多いけれども、それでは**算数の思考力はなかなか育たない。**だから、もしわく算で子どもたちが「これ！これ！」と言ってきたら、できるだけ算数の用語でフィードバックをしてあげて欲しい。そうすると同じイメージで話ができるので、思考力が高まっていくと思う。これは他の教科でも同じ。「教科書をどうにか終わらせなければ！」という教師側の焦りから、授業中はただ資料を見て終わってしまうことが多い。でも、できるだけその教科の言葉でアウトプットさせて、その中で子どもたちがどこまで分かっているかを判断しながら、子どもとのやりとりを楽しんでほしい。これは難しいこと。だけど、教え込みすぎようとし過ぎないように！教え込み始めると子どもは必ず距離を取り始めるので、遊びながら楽しく過ごしてほしい。